

# 『住んでよし、訪れてよし』の持続可能都市京都を支える人材育成に関する研究 ～京都すばる高校：みんなごと化プロジェクト～

## 【研究開発の背景】

### ○ 京都の課題

- ① 少子高齢化
- ② 訪日外国人の急増によるオーバーツーリズム
- ③ 地域に根ざした観光人材の不足



### ○ このプロジェクトで育てたい人物像

ビジネスの視点から、京都の課題を発見できる人

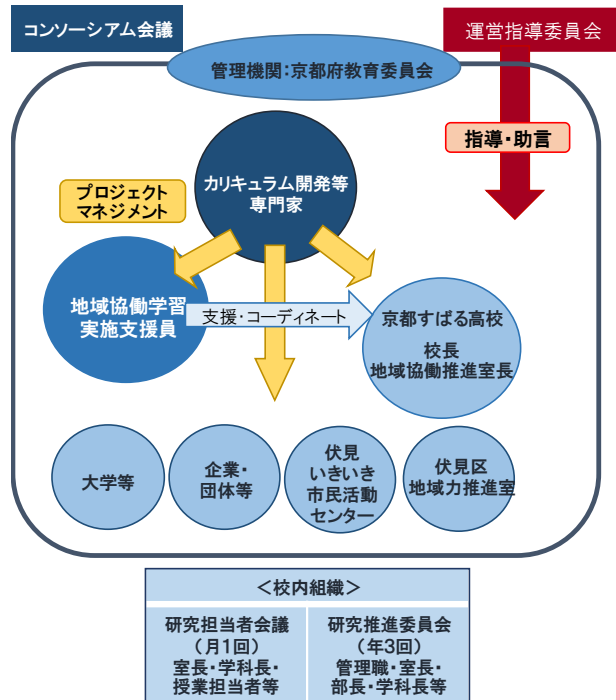
⇒ 発見した課題を「じぶんごと」としてとらえ、考えられる人

⇒ 多様な価値観や背景を持つ人・立場の異なる人を巻きこんで「みんなごと」としてとらえ、新しい成果を出せる人

### ○ 育成したい資質・能力

当事者意識・探究力・論理的思考力・協働力

## 【実施体制】



## 【令和元年度の目標】

生徒に次の資質、能力を身につけさせることを目標とする。

- 社会問題に対する当事者意識を持たせる
- 地域課題を理解して、背景や原因を追求する探究心や論理的思考力を高めさせる
- 地域の多様な他者と課題を共有し、協働する力を高めさせる

これらの目標に向け、コンソーシアム会議や地域協働学習実施支援員の支援を受けながら、プロジェクト型授業の実践を進める。

## 【主な取組事例】

### 起業創造科（新学科）（会計の視点から、地域の諸課題に気づく）



伏見大手筋商店街“高い”リサーチ



島根県雲南市への視察、交流

### 企画科（新学科）（マーケティングの視点から、地域の諸課題に気づく）



地域イベント運営



アフリカと向島地域をつなぐ「じぶんごと化プロジェクト」

### 会計科・企画科・ビジネス探求科



伏見区役所深草支所との連携  
ゴミ問題（会計科）  
観光分散化（企画科）  
伏見稲荷大社周辺の住みよいまちづくり会議



龍谷大学との連携  
伏見ふれあいプラザ合同運営  
（ビジネス探求科）

## 【成果と課題】

### 1 成果

- ① 地域協働学習実施支援員との定例連絡会議の実施（年間36回）
- ② 地域協働学習実施支援員の地域・企業とのコーディネートの役割および連携授業の補助
- ③ 地域課題解決型授業の実施（全学年）
- ④ じぶんごと化（地域の諸課題への気づき）

#### ○ 当事者意識（生徒アンケート）

「様々な社会問題や世の中で起きていることに対して、当事者意識を持つことができたようになったか」  
⇒ 97%の生徒が肯定的な回答

#### ○ 探究力

地域課題に対して、その課題を理解し、背景や原因を深く掘り下げながら「探究力」を身につけさせる授業の仕組みを構築できた。

#### ○ 論理的思考力

企画提案する過程で、「課題理解→仮説設定・実行→検証→修正・再提案」の一連の流れで、課題解決に向けての研究を実施できた。

#### ○ 協働力

地域の多様な方々と多様な問題解決に向けて、生徒が何度も議論し、問題意識を共有する取組ができた。

### 2 課題

- ・ 事業評価と生徒評価の評価法の確立（統一した外部評価基準の作成を含む）
- ・ 情報発信の一層の活性化
- ・ 学校設定科目「起業マネジメント」および「グローバルビジネス」の充実、高校生版地域公共政策士の資格創設の推進
- ・ コンソーシアム会議の日程調整及び構成員の再構築
- ・ 学校行事、時間割等との調整による事業の一層の円滑化
- ・ 事業内容の精選と「見える化」した形での整理、共有

「みんなごと化」へ向けて  
学校設定科目の活用